

# MAENAN SAH Journal Vol.26

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Dec. 21st, 2023

## ★本校職員による『生徒の主体性を高める取組計画』について★

\*文字ばかりでごめんなさい！



令和5年4月に『SAH』の指定を受け、この9ヶ月の間に本校の職員間でも『どうすれば生徒の主体性を高めることができるか？』『どうすれば非認知能力を高めることができるか？』『どうすれば当事者意識を高めることができるか？』と議論を繰り返してきました。

『突然の大改革』になってしまうと生徒だけでなく、保護者も職員も戸惑うことになってしまいます。そこで関根校長先生の『無理な改革はしない』『できる部分から徐々に着手する』『来年度からできる事業を考える』『さらに来年度も議論を継続していく事業があってもよい』という方針のもと、ここまで『SAH』を進めてきました。現時点で議論している項目は、大きくまとめて『15項目以上』あります。

今回は2学期末ということもあり、『すでに取組を開始しているもの』『来年度の計画を検討しているもの』のなかから『8項目』についてご紹介します。まだ『計画』の段階のものもありますので、今後さらに変更することもありますので、ご容赦ください。

### ①『生徒の主体性を育てる授業』作り

従来の『チョーク&Talk』と呼ばれる教授法の効果もあると思いますが、それだけでは『非認知能力』は向上しません。しかし、『手段』が先行し目的化しないように本来の目的を見失わず我々職員も日々、より効果的な教授法を求め、自己研鑽し研究しております！

### ②『個別最適化した生徒への課題』作り

全生徒に『同一課題』を課す時もあります。しかし、それだけでは効果的ではありません。まずは『範囲を設定し、その中から生徒が自分にとって最適な課題を選択する』ことから開始している教科もあります！『Classi』のAIを駆使した『個別最適課題』も活用します！

### ③『校則の見直し』の機会を生徒へ

『生活委員会・生徒会・有志生徒』を中心に『教師が指導する』という形から生徒自らが『エージェンシー』を発揮することで『生徒個人と学校全体のウェルビーイング（幸福や充実感で満ち足りた状態）』を高めることができると信じています！ぜひ見守ってください！

### ④『生徒の主体性を育成する補習』の企画

『教わる』ではなく『学ぶ』へ！『やらされている補習』では効果は期待できません！『生徒が主体性をもって参加できる補習』とはどんなものが議論しています。すぐに『理想的なもの』を提供できるかわかりませんが、現在真剣に考えております！

### ⑤『サダデープラン』の見直し

④と同様ですが、土曜日に登校を促し補習を行っていますが、現在見直しを検討しています。部活動の大会等へ参加する公欠生徒への不公平さも問題でした。生徒の『土曜日の自由度』を高め、『部活動』だけでなく『自分の興味のある分野への挑戦』も促したいと議論を深めています！

### ⑥『生徒の主体性を発揮できる学校行事』の設定

『修学旅行』『文化祭』『スポーツ大会』『スキー教室』『文化活動発表会』『学校説明会』など、すでに生徒たちは主体性を発揮しています。しかし、これに満足せず『さらにもっと！』と考えております！

### ⑦『生徒の主体性を発揮できる部活動』の促進

部活動でもすでに生徒たちは主体性を発揮していますが、さらに活弁になることを期待しています！本校の特色となることを期待します！テニス部においては生徒が『片品での夏合宿』を企画し運営したようです！

### ⑧『生徒の主体性を発揮できる環境』の整備

『施設設備』の検討もしています。予算に限りはありますが、『生徒ひとりひとりの高校生活のWell-being』を高められるようなものを導入できるよう模索しています！『生徒発案企画』もWelcomeです！

ここまでの1, 2学期を振り返ると、4月からの9ヶ月は『怒濤のような9ヶ月』でした。文部科学省が推進してきた『Super English Language High School (SELHi)』『Super Global High School (SGH)』『Super Science High School (SSH)』などは、教職員が率先して研究開発する事業です。先生方が新しい教授法を考案したり、何か新しいことに挑戦したり、新しい事業を計画し、生徒に体験させるといったプロセスのものが多かったと思います。先生方が長い期間をかけて準備した『土俵』の上で、生徒たちが『さまざまな挑戦をする』といった形式です。

しかし、今回の『Student Agency High School (SAH)』は、『先生方が準備する』のではなく、『生徒が自ら考え、判断し、行動する』ように促す必要がある！という点に難しさがあります。

『生徒がイチから考える』『生徒がゼロからスタートする』ということになり、『先生方は生徒の行動を予期できない』という難しさもあります。『生徒の主体性の成長』を止めないためにも『頭ごなしに否定する』ということではできません。『やらせてみる』『様子を見守る』『あえて苦労させる』という『忍耐』も必要です。当然、『生徒が失敗しないように先生方が事前に手を出す』ということは御法度です。『失敗』こそ『最高の経験』となる可能性を秘めているからです。

前年生は本当に我々の想像をはるかに超えてきてくれました。こんなに素直に『挑戦する』ことをいとわない生徒がたくさんいることを誇りに思います！まもなく新年になりますが、ますます生徒の活躍が楽しみです！文責：星野 亨（教頭）



★校長より★ ～プロローグ 『価値観が多様化し、課題が複雑化する中、将来予測が困難とされる時代を生きる子供たちには、自ら課題を見だし解決に向けて考える力や多様な人々と協働する力、新たな価値を生み出す力などが求められます。』（「新・群馬県総合計画」より抜粋）～ いよいよ来春、群馬県の高校入試が変わる。変化へ対応するために動き出した前橋南高校。生徒は「変革を起こす力」を生む「自律」「対話」「創造」という3つのコンピテンシーを身につけるべく、3年間の高校生活に挑む。生徒を受け入れる側の教員もまた、その主体性を育むための取組計画に着手している。果たしてどんな変貌を遂げるのか。その行方は・・・近日公開！ 乞うご期待！！

校長 関根 正弘